

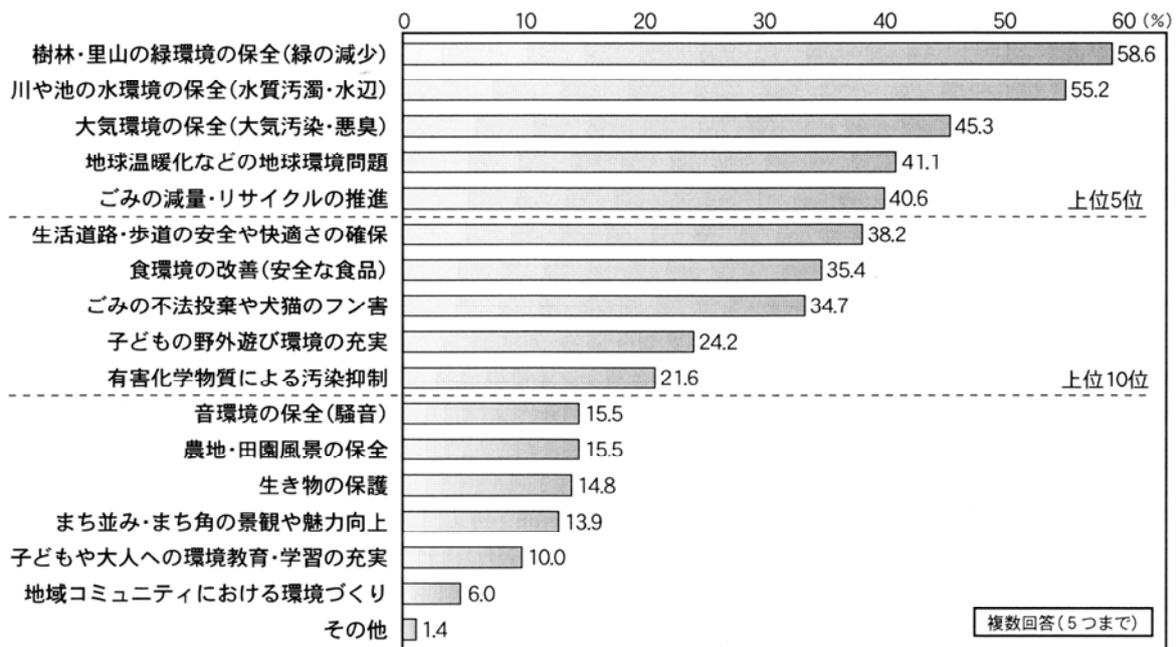
4 アンケート調査結果の抜粋

アンケート調査結果の抜粋を示します。

■ 調査対象 ■

- (1) 市民 / 18歳以上の市民から無作為抽出した3,000人〔回収率55%〕
- (2) 子ども / 小学5年生、中学2年生の全員1,338人〔回収率96%〕
- (3) 事業者 / 従業員規模の大きい事業所上位300社〔回収率54%〕
- (4) 農業者 / 経営耕地面積の大きい農業者を中心に200人〔回収率74%〕
- (5) 樹林地所有者 / 保安林を除く所有面積の大きい地権者上位200人〔回収率56%〕

どんな環境問題に関心がありますか？



▲市民全体の関心ある環境問題

市民全体(子どもは含まず)では、1位が「樹林・里山の緑環境」、2位が「川や池の水環境」、3位が「大気環境」となり、身近な自然の大きな要素の緑、水、大気に対する関心が高くなっています。ついで、「地球温暖化」、「ごみ減量・リサイクル」といった地球規模の環境問題への関心が高いという結果でした。

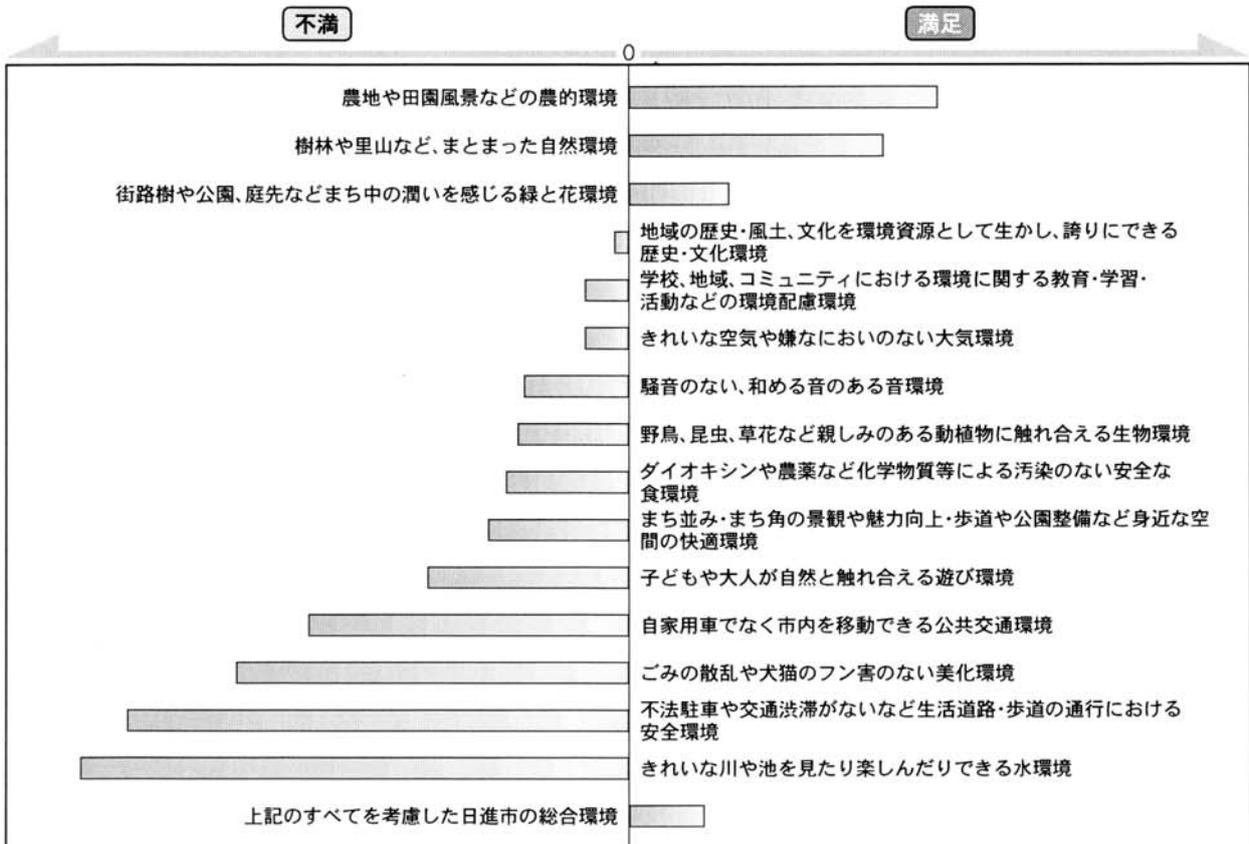
環境問題への関心を男女別、年齢層別で見ると…

順位	女性	男性	若年層 (49歳以下)	高年層 (50歳以上)	子ども
1	緑環境の保全	水環境の保全	緑環境の保全	緑環境の保全	川や池の水が汚れていること
2	水環境の保全	緑環境の保全	水環境の保全	水環境の保全	まとまった緑が減っていること
3	大気環境の保全	大気環境の保全	地球温暖化など	大気環境の保全	地球温暖化など地球環境が危ないこと
4	食環境の改善	道路・歩道の安全や快適さ	大気環境の保全	ごみの不法投棄やフン害	自動車やバイクなどで騒がしいこと
5	地球温暖化など	ごみ減量・リサイクル	ごみ減量・リサイクル	道路・歩道の安全や快適さ	ごみや犬のフンでまちが汚れること

▲属性別の関心のある環境問題上位5位

男女別にみると、女性の4位に「食環境」、男性の4位に「道路・歩道の安全や快適さ」が入っていることが特徴です。年齢層別にみると、高年層で「ごみの不法投棄やフン害」、「道路・歩道の安全や快適さ」といった身近なまちの快適さに関することへの関心が上位になっています。一方、子どもと若年層では、3位に「地球温暖化など」が入り、未来の地球をより憂いているといえます。また、市民全体では11位の「騒音」が、子どもでは4位に入っていることが特徴的です。

まわりの身近な環境に満足していますか？

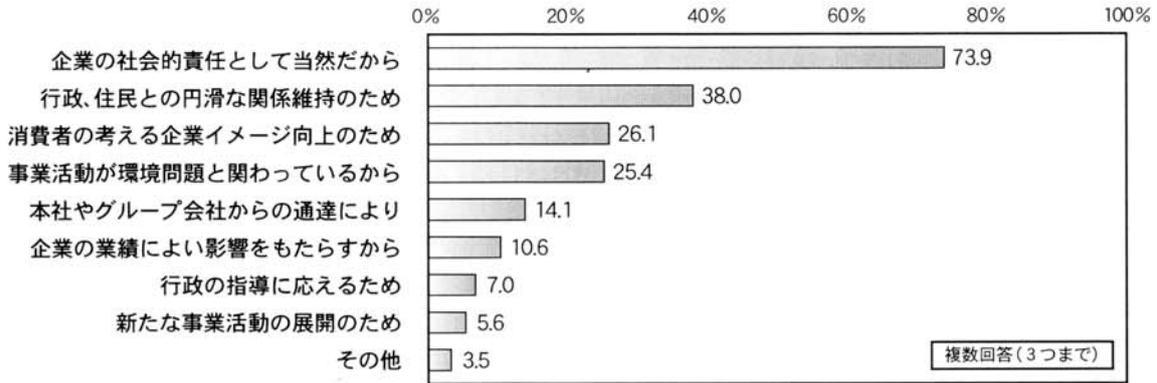


▲身近な環境への満足度(市内平均)

15ある環境要素のうち、少しでも満足となっているのは「農的環境」、「自然環境」、「緑と花環境」の3つです。特に不満の3要素は、「水環境」、「安全環境」、「美化環境」です。しかし、すべてを考慮した総合環境はどちらかといえば満足としていて、満足となっている環境要素が不満のものより今のところ勝っているといえます。このことから不満とされている環境要素の改善だけでなく、満足となっている環境要素の保全が大切であるといえます。市内の7つの小学校区別に見た傾向は次のとおりです。

<p>西小学校区</p> <p>「緑と花環境」が不満の領域となっています。市内平均と比べて「音環境」、「大気環境」の満足度がより低くなっています。7学区で唯一、総合環境がわずかながら不満となっています。</p>	<p>東小学校区</p> <p>市内平均と比べて、「自然環境」の満足度がより高くなっている一方、「快適環境」の満足度はより低くなっています。</p>	<p>北小学校区</p> <p>市内平均と比べて「歴史・文化環境」、「大気環境」が満足となっています。</p>	<p>南小学校区</p> <p>市内平均と比べて「音環境」、「大気環境」が満足となっています。</p>
<p>相野山小学校区</p> <p>「音環境」、「生物環境」、「大気環境」、「環境配慮環境」が満足となっています。その他、市内平均と比べて、より満足度が高くなっている要素が多くなっていますが、「公共交通環境」だけは満足度がより低くなっています。</p>	<p>香久山小学校区</p> <p>「快適環境」、「大気環境」、「音環境」、「遊び環境」、「環境配慮環境」が満足となっています。市内平均と比べて、「緑と花環境」、「快適環境」の満足度が非常に高くなっている一方、「農的環境」の満足度はより低くなっています。</p>	<p>梨の木小学校区</p> <p>「緑と花環境」が不満となり、市内平均と比べて「音環境」、「緑と花環境」、「遊び環境」、「自然環境」の満足度がより低くなっています。一方、「美化環境」、「公共交通環境」の満足度はより高くなっています。</p>	

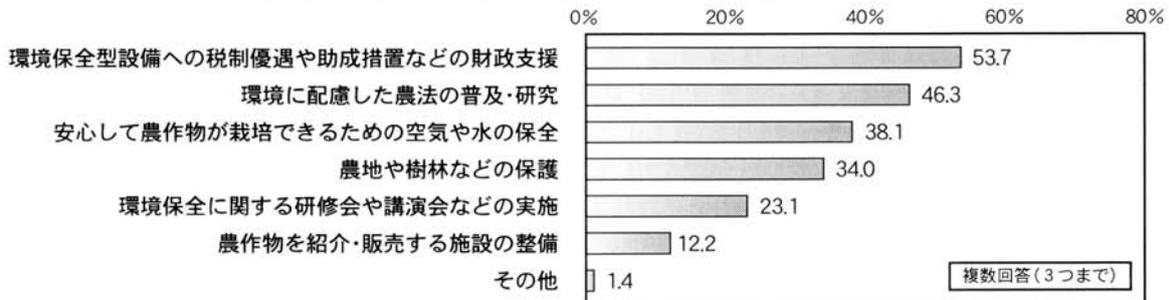
事業所が環境対策に取り組む理由は？



▲事業所が環境対策に取り組む主な理由

「企業の社会的責任として当然だから」が最も高くなっています。比較的規模の大きい事業所が調査の対象であることを前提としても、多くの事業所では、環境対策を社会的責任として取り組んでいこうとしていることがうかがえます。

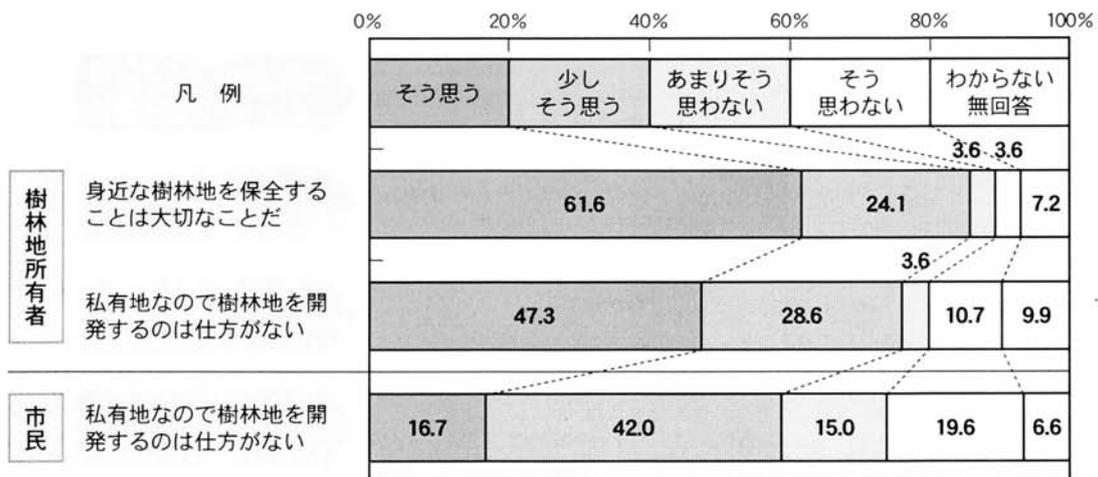
農業者が環境保全のために期待する行政施策は？



▲農業者が環境保全のために期待する行政施策

「環境保全型設備への財政支援」、「環境に配慮した農法の普及・研究」が約半数を占め、設備投資も含め、日進市にあった環境保全型農業の技術の普及が求められているといえます。ついで、「空気や水の保全」、「農地や樹林などの保護」といった農業を営む上での周りの環境を守る取り組みが求められています。

樹林地所有者の樹林地の保全と開発に対する意見は？



『身近な樹林地を保全することは大切なことだ』に対して、「そう思う」と考える人は約62%と高くなっていますが、『私有地なので樹林地を開発するのは仕方がない』に対して、「そう思う」と考える人が約47%となっています。これは、保全の必要は認めるが、いざというときに開発するのは仕方がないというのが樹林地所有者の正直な気持ちといえます。これに対して、市民は『開発するのは仕方がない』に対し、「そう思う」と考える人はわずか17%であり、さまざまな条件があるものの、基本的な樹林地所有者と市民とのギャップを埋めていくことが樹林地の保全についての課題といえます。